

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401069		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会		
事業所名	地域密着型認知症対応共同生活介護 グーループホーム へたみ家		
所在地	熊本県 玉名市 天水町部田見1214-15		
自己評価作成日	平成28年9月21日	評価結果市町村受理日	平成28年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	平成28年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

へたみ家はミカン畑に囲まれ玄関を出れば地域の家、遠くには島原半島が見える小高い丘の上にあります。春には小鳥のさえずりが聞こえる自然豊かな所で、生まれも育ちも年齢も違う認知症の高齢者の方が9人生活しておられます。皆さん、時には不安や淋しさがあられると思いますが、ご利用者や職員と一緒に笑ったり感動したり外出したり、思いを語り合ったりその人らしく生活しておられます。又、ご家族とご利用者、職員との繋がりが深まるように家族をお招きしての敬老会や運営推進会議に参加していただき、認知症カフェや外出行事の際は必ず、ご家族へ連絡を行い参加を呼び掛けています。また、気軽に面会して頂けるように職員とご家族の信頼関係づくりに努め、安心していただけるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然あふれる環境の立地にあります。以前地域に住まわれていた利用者の方の自宅が窓から見えたり、落ち着いて生活できる環境が整っています。また熊本地震の際も同一敷地内の他施設に速やかに避難したり、応援協力体制が整備されていたりと、法人組織が大きいだけでなくしっかりと事業所間の横の連携もとれており、サービスの質を落とさない安定した組織・事業所運営がなされています。また運営推進会議や自ら運営する認知症カフェ・認知症サポーター養成講座等にも力を入れており、事業所内だけでなく地域の一員としてお互いに支え合い生活されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基にグループホーム内に基本方針を掲示し全職員が理念・方針を共有し実践している。	法人理念と基本方針が談話コーナーに掲示されており、全職員が理念・方針の共有に努めています。また年度毎に事業計画が策定されており、計画に基づいて運営されています。	職員さん一人ひとりの実践を通して、日々提供されるサービスへ具体化された事例が増えることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が野菜の植え付けや水やりを行っていただいている。地区での敬老会や民生委員主催の高齢者の集い、地区の小学校の学習発表会事前学習の受け入れ及び発表会への招待を受けるなど地域の一員としての交流に努めている。	自主的に事業所周辺や地域の美化活動を行ったり、以前から地域在住されていた方は地域の敬老会に参加されたり、町のお祭り等の行事にも参加し継続的に地域とのつながりを持たれています。	職員さんが地域住人の一人として交流が深まる取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのミニ勉強会開催で地域の方に文面だけでなく事例などを紹介し支援の方法を伝達している。又、法人主催のころばん隊では地域の方に体操や健康チェックで地域貢献を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではご利用者の状況や活動写真をパワーポイントで紹介し報告を行っている。また、地域の名所などをお尋ねし計画に取り入れ、サービス向上につなげている。	会議を通して事業所への意見・要望が出されており、防災訓練に地域の消防団の協力が得られるようになったり、認知症サポーター養成講座の講師やファシリテーターとして地域の学校や企業へ啓発的な活動がなされています。	運営推進会議が事業所の運営にさらなる協力と支援がなされるような取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市役所担当職員と南部包括支援センターの職員の参加があり事業所の報告を行い意見交換を行っている。	運営推進会議において市役所担当職員や地域包括支援センターの職員と事業所の利用状況や待機予定者等の報告を行い、市の福祉施設の状況や行政の取り組みや制度等の情報を聞き、情報交換を行っています。	今後予測されるサービスの需要について情報が得られるといいですね。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止委員会がありグループホーム職員も委員として活動中。毎月1回の委員会に参加し、内容を共有し全職員が理解した上でケアに取り組んでいる。	法人内の委員会の会議や研修会に参加したり、事業所内の研修会にて委員会からの報告を行っています。年2、3回の法人内管理者が各事業所を回り、拘束にあたらなくてもグレーゾーンとなるような行為のチェックが実施され、注意喚起を促しています。	チェックを元に、職員さん一人ひとりが自身で判断できる力が養われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員による勉強会・ラウンドの実施を行い、職員の意識づけを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で権利擁護の研修を受けた職員より研修報告や資料提供を受け学ぶ機会がある。必要が生じた場合には支援する体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方、利用料金、医療連携などを説明し、理解・納得されて同意を得ている。利用者の状態変化で契約解除になる場合には本人・家族・医療機関等を交えて対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、直接意見があった場合には苦情処理表に記入しグループホームの職員及び法人リスク委員会・施設長に報告、運営推進会議で報告することになっている。	家族会、運営推進会議や行事・外出に家族が参加されたときや、日ごろの電話連絡等でのやり取りを通じて、気軽に意見や要望を話していただけるような関係づくりに努めています。家族アンケートからの要望は無いようです。	利用者家族は意見や要望、不満を出し難いということを理解し、職員さんや事業所側から直接・間接を問わず、積極的な聴く工夫への取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面接と年1回の自己申告書により意見を聞いている。又、それ以外にも随時意見を言えるような環境を整えている。	面接やミーティングまた管理者が業務中スタッフとのやり取りの中から聞き取りした意見から、有給休暇を年5日はとってもらったり、職員の紹介制度を導入したりと、職員の意見を取り入れた事例がありました。	介護事業所を取り巻く環境の変化を経営幹部と職員さんが共通の認識として、組織・事業所のあるべき将来像について話し合える場ができるといいですね。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度(職能要件書・勤務態度評価)を導入し、年2回、課長・管理者で職員一人一人と面接を行い話し合いの場を設けている。又、年2回のストレスアンケートを実施し一人ひとりの思いを把握すると共に必要な職員へは対応を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会が設置され、法人内の研修、外部講師を招いての研修を実施。施設内外の研修案内を掲示板に貼り、立場や経験、習熟度の段階に応じてパートも含めすべての職員が受講できるように学ぶ機会を確保している。研修参加後は全職員が共有できるように施設内研修報告する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市グループホーム連絡会があり、その中で勉強会やレクレーションを通して職員間・利用者間の交流を行い法人外の人材の意見や経験をケアに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を理解し、信頼関係を築けるように、事前面談で生活歴や疾患、心身の状況を本人や家族等から情報を得て職員で共有し安心して過ごしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困り事、不安、要望をお聞きし、グループホームへ入所後の様子を連絡し相談を行いながら不安や困り事の解消に繋げるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にサービスが必要と思われる時には、ご家族に相談し必要なサービスに繋げる等柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方に料理の作り方を聞いたり、日々の会話の中で生活の知恵を学びながら、安心して穏やかな生活ができるように働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流をより深める為に家族をお誘いし、外出行事、誕生会、敬老会を行っている。又、ご利用者の暮らしに課題が生じたり体調に変化があった時には随時連絡を行い一緒に支えていくような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域への外出や美容院への外出支援、地区での敬老会や行事へ参加をし、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援を行っている。	グループホームが主体となり開設した認知症カフェに近所の方や地域の方に来てもらい、これまでの馴染みの関係継続に加え、新しい人間関係を築くのに意欲的です。	本人を支えてくれる関係だけでなく、本人が支えてきた関係にも注目することで、支援できることが広がるのではないのでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつは体調不良がない時には皆様食堂で職員も一緒に会話をしながら食べて頂き、その他の時間も体操などのレクリエーションやテレビなどを見て皆様で和やかに過ごしていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方にも病院入院中の方は面会に行ったり、退院後の相談や支援に応じるように家族へお伝えしている。法人内の施設に入所されている方は行事などの際にグループホームで顔なじみだった方と話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な方には希望を聞いたり、意思疎通が困難な方は本人の日頃の行動や言葉より気持ちをくみ取ることができるように職員間の情報交換を行っている。	日ごろの関わり合いの中から、申し送りノートや業務日誌、職員間のコミュニケーションを通して情報を共有し、利用者の思いや意向を把握するよう努めています。	利用者家族のお祝い事等にも着目し、中長期のケアプラン、介護目標にも生かしてみたいか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴や嗜好・一日の暮らし方・精神状況などを本人や家族から伺い、相談員からは書面で入居前の情報提供を受け本人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを職員が把握することが出来るように日々の記録や口頭での情報交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞くと同時にグループホームでの生活状況などを報告。ケアマネを中心に意見交換・モニタリングを行い介護計画を作成し実践している。	サービス担当者会議にできるだけ家族の参加を促し要望を聞き取っています。モニタリングは全職員さんで行い、医師等の他職種からの意見も反映し、また状態変化に応じてケアプラン変更も実施されています。	変更の過程が検証できるような記録の工夫があると、サービスの質のさらなる向上が期待できるのではないだろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は勤務前にご利用者ごとの日々の暮らしに目を通し前日までの様子を共有している。介護サービス計画は日々の生活の状況を共有し計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続、近隣の高齢者が状況に応じてショートステイの利用ができるように、グループホームの多機能性を強化している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域より地域の敬老会への参加や民生委員主催の集いへ誘いをいただき、以前からのお知り合いの方と会い楽しめたり、法人施設に在所される地域の学校からの交流やボランティアとの交流に参加し、楽しみのある生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院のほか利用前からのかかりつけ医や専門の医療機関で受診が受けられるようにご家族と協力し通院介助を行っている。又、必要時には訪問診療に来ていただくケースも考え、対応していく。	協力医療機関や以前からのかかりつけ医の診療を継続し、往診や受診時に連絡票にて情報共有に努めています。また状態に変化があったときには主治医に報告・相談し、密な連携を図っています。	利用者と利用者家族の将来的な要望を踏まえて、事業所としての専門的な立場からのより積極的な支援が期待されます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の状態変化の場合は速やかに看護師に情報を提供し、必要に応じ看護師が受診等の判断をし状態に応じた支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には支援方法に関する情報提供書を看護師が作成し医療機関に提供。入院中も面会に行き情報を家族や医療機関から得、医療機関や家族の相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応指針を定め事業者で対応できるケアについて説明している。又、状態の変化があるごとに本人、家族の思いに添えるように支援している。	入居契約時に重度化した場における対応にかかる指針を提示し、事業所でできることを説明し、利用者や家族の思いを受け止めようと努めています。現在のところ看取りは行われていません。	本人や家族の安心と納得が得られるような取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の看護師の協力を得て救命手当のポイントの研修を実施し職員が対応できるようにしている。又、緊急時の対応マニュアルを事務所に貼り周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ての法人全体での避難訓練の他にグループホーム単独での訓練で発火場所を探すことからの訓練を実施している。地域への協力は運営推進会議で協力を呼び掛け、地域消防団の方へも参加して頂いている。	熊本地震の際にも同敷地内の老健施設に避難する等、しっかりしたマニュアルや応援体制が整備されています。運営推進会議にて地域消防団の応援協力も取り付けられており、法人事業所だけでなく地域も巻き込んだ災害対策が意識されています。	訓練実施からの要望を受けて、さらなる実践的な取り組み、継続的な取り組みになるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りを損なわないような言葉かけについて身体抑制廃止委員会で、施設内研修を行い尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。日々のケアでは誇りや人格を損なわないような声掛けに注意をしている。	利用者に対して様付けで呼んだり、新人研修において挨拶を重要視したり、人事考課にも挨拶の評価項目があったりと、職員に対して声掛けや接遇マナー等の意識付けに積極的に取り組んでいます。	取組みの継続を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には、ご本人に選んでいただくように複数の選択肢を提案している。(催しに参加する、しない、等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など基本的な流れはあるが、その日の体調に配慮し時間をずらしたり等、本人の気持ちに添い個別に支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には化粧水や乳液を使ったり、起床時には櫛を持っていただき身だしなみを整えていただいている。希望者には美容院への外出支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を手伝っていただいたり、誕生会を開催したり食事の楽しみが続くように支援を行っている。食事時には職員もテーブルに座り一緒に会話をしながら食事を共にしている。	管理栄養士が旬のものや熊本独自の素材やメニューを取り入れた献立を作り、職員と一緒に準備や食事をされています。個別外出での外食等近くのレストランに出かけたりと、食事を楽しむ工夫を積極的に取り組まれています。	栄養を重視した取り組みと共に、味付けや、盛り付け、支度等で利用者が一人ひとりに活躍できる場があるといいですね。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量が少ない方は職員間で随時情報交換を行い出来るだけ摂取していただくように努めている。本人の食生活の習慣・好き嫌いもできる限り把握し別メニューでの提供も行っている。法人内の管理栄養士がメニューは作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、その方の能力に応じて一部介助や全介助で口腔ケアの援助を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄習慣・時間を把握すると共にその人の動作でサインを見逃さずに誘導を行いトイレでの排泄の支援を行っている。	夜間のおむつ使用はなかったり、本人の状態アップに合わせてリハビリパンツから布パンツへと移行したりと、少しでも自立した排泄へと意識高く取り組まれています。	一人ひとりの自立へ向けた個々のアプローチの継続を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質のある食材などを取り入れている。又、ご利用者に合わせた散歩や腹部マッサージも行い便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自の入浴の声掛けのタイミングに気を配りゆっくりと安心して入浴ができるように同じ職員が入浴誘導からお風呂からあがられてお茶を飲んで頂くまで支援をしている。	日中の入浴拒否の利用者に対しては夕食後の入浴で対応したり、浴用品は本人の好みに合わせたものを家族に依頼したりと、一人ひとり人の嗜好に合わせた支援によって入浴を楽しめる工夫がなされています。	利用者の身体状況が変化していく中で、介護者の負担を減らしていくような工夫、設備の更新等も期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員全員がご利用者の状況を把握し、その方に合った休憩や臥床の援助を行いゆっくり休んで頂いている。夜間に不眠の方には話を聞いたりお茶を提供し安心して就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は看護師がファイルに整理いつでも確認できるようになっている。職員は薬の目的を理解し内服に関しても確実に内服していただくようにご利用者の能力に合わせた介助を行っている。又、情報は看護師に随時報告し状態の変化・悪化予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で暮らしておられる時に自分で行っておられた料理の手伝いや食後の片づけ、洗濯物たたみ等を手伝っていただき感謝の言葉を伝えている。又、外出行事やボランティアが来られる時には参加をし歌や踊りの観賞や子供達との触れ合いで気分転換を行っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には屋外の散歩の声掛けを行い一緒に景色を見ながら会話し、ゆっくり本人のペースで散歩を行っている。又、季節ごとの外出計画を立て花の名所などに出かける。年に2回は家族もお誘いし参加可能なご家族の同行と地域の方からボランティアの協力を得ている	本人の好みに合わせ外出に出かけたり、家族の協力を得ながら自宅への帰宅を支援したりと、その人らしさを尊重した個別支援がなされています。また、散歩や草むしり等日光浴になるべく外に出るようにし、心身ともにリフレッシュできる支援がなされています。	支援した内容を分析し、自らの取組みを自らで評価し、サービスの質の向上につながることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎年、初詣には全員お守りを選んで購入できるように職員が援助をしている。又、数人の方が自分で少額のお金を家族の協力理解で手元に持っておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の依頼には取次ぎを行い援助をしている。子供さんからの手紙も楽しみにしておられるので届いたら直ちにお渡し喜んでいただいている。年賀状はご利用者の手書きに職員が付き添い全家族へお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝陽の入る食堂前にはテラスと花壇があり季節の花や野菜を植えている。又テーブルには野の花を飾り季節感を持っていただけるように支援している。	食堂や談話コーナー、廊下等の共用部には天窓からの優しい光が入ってきて、落ち着いた空間づくりがなされています。夏にはゴーヤカーテン、冬には干し柿を干したり、また毎日同じ時間にエレクトーンの演奏があったりと、季節や時間が自然と感じ取れる工夫があげられました。	利用者の要望や意見を聞きだして、季節にあわせた居室の様子がえなども話題にされてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と談話コーナーには椅子やテーブルがあり一人になったり気のあったご利用者で過ごされている。又、畳の部屋もあり自分の思い思いの所で過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったりご本人が家族とゆっくり過ごされるようにテーブルなど持ち込まれているところもある。	位牌や以前使用されていた家具等を持ち込み、穏やかに生活されている様子でした。物が少なくシンプルな居室もありましたが、その人らしさを尊重した居室づくりを意識されているのが感じられました。	利用者の意向を確認しながらの継続的な取り組みを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるように身体機能に応じて歩行器や手すりの使用、介助での歩行援助や環境整備を行ってできることが活かせるように工夫している。		